

大学院看護学研究科 博士前期課程		授業 科目	パリアティブケア Palliative Care			担当 教員	鈴木志津枝（専任） 安藤 悦子（専任） 片岡和三郎（非常勤） 小迫富美恵（非常勤）	
開講年次	1年次後期	単位数	2単位	科目 分類	専門科目 実践看護学	授業形態	講義、セミナー	
選択必修	選 択	時間数	30時間			使用教室	南館 202 演習室	
授業の目的及びねらい								
<p>がん患者に生じる苦痛を全人的にとらえ、その人の生活を通して苦痛を癒していく方法や QOL を考えた全人的ケアを提供できる高度な実践能力を修得する。さらに、がんの進行に伴い生じる症状のメカニズムやアセスメントの方法、症状に対する薬理的、非薬理的なアプローチ方法に関して、最近の研究成果や実践報告を活用しながら学習を深める。さらに、パリアティブケアの現状の課題と今後の展望についても洞察する。</p>								
授業のキーワード								
緩和ケア， 全人的痛み， QOL， インフォームドコンセント， 症状マネジメント， ケアリング， 死と死にゆくプロセス， 精神的援助， 家族ケア								
講義回数	授 業 内 容 及 び 計 画							
第 1 回	緩和ケアとは， 緩和ケアの動向と課題（文献的考察）							
第 2 回	(小迫)							
第 3 回	・痛みをもつがん患者のアセスメントと看護援助 1							
第 4 回	・痛みをもつがん患者のアセスメントと看護援助 2							
	・がん患者の予期悲嘆への援助							
	・スピリチュアルケア							
	(鈴木・安藤)							
第 5 回	・倦怠感をもつがん患者のアセスメントと看護援助							
第 6 回	・呼吸困難のあるがん患者のアセスメントと看護援助							
第 7 回	・消化管通過障害・腸閉そくのあるがん患者のアセスメントと看護援助							
第 8 回	・腹水・腹部膨満をもつがん患者のアセスメントと看護援助							
第 9 回	・不安・抑うつのあるがん患者のアセスメントと看護援助							
第 10 回	・せん妄のあるがん患者のアセスメントと看護援助							
第 11 回	・緩和ケアにおけるがん患者のセクシュアリティ							
第 12 回	・緩和ケアにおけるがん患者の QOL， 希望							
第 13 回	・緩和ケアにおけるがん患者へのケアリング							
第 14 回	・死にゆく患者の家族の理解と援助							
第 15 回	・死別後の家族の理解と援助							
テキスト								
参考文献	講義の中で文献を提示します。							
成績評価の方法	授業への参加度（5%） プレゼンテーション（20%） 課題レポート（75%）							
教員から学生へのメッセージ	鈴木が担当する授業に関して、受講生は既存の文献や自己の実践事例に基づきまとめ、プレゼンテーションを行い、プレゼンテーションの内容に基づきディスカッションを行います。 在宅ホスピスケアに関する特別講義を開講する予定であるので、その講義にも出席してください。							